

くじけず助け合おう

地震の災禍受けた神戸から

神戸市立御影工業高校教諭 佐田 憲三

拝復 このたびは阪神大震災（兵庫県南部地震）の災禍を受けました際、さっそくご厚情あふれるお見舞いをちょうだいして、まことにありがとうございます。

地震が起こった直後、部屋の中は、本だな、冷蔵庫、テレビ、食器だながひっくり返り、食器や電気などあらゆるガラスものが割れ、凄まじい様子になっておりましたが、やっと部屋は、落ち着きを取り戻してきました。

しかし、神戸の街は悲惨な状況です。ビルが倒れ、家が倒れ、高速道路が落ち、電車は脱線し、火事跡は延々と広がり、道は至る所コンクリートが隆起し、写真やテレビで見るよりもずっとずっとひどい有り様です。そして、ほとんどの地域が水もガスも通じておりません。私は、その神戸の街中を自転車で行き回っておりますが、頭の上に何か落ちてこないかとひやひやしています。そしていつもパトカーや消防車や自衛隊車の緊急自動車のサイレンがなり響いております。

道路は車とバイクと自転車の群れです。主要な幹線道路は使えないので、大渋滞になっており、その隙間をバイクや自転車が交通法規を全く無視して走っておりますので、危なくて仕方ありません。もちろん歩いている人もたくさんいるのですが、皆に共通して言えるのは、ネクタイをして歩いている人がほとんど居ないことです。老若男女がジーンズをはき、帽子やヘルメットを被り、リュックサックを担いでいます。

それは、電車の中でも同じ風景です。私も学校へ行くときでも、リュックを背負い、ヘルメットを被り、ジャンパーの下トレーナーには、いつ何があるかも分からないので、「明石市 佐田憲三」と大きく背中に書き、その下に電話番号を書いています。通勤するのも命懸けなのです。次にもし大きな余震があつて、そのときたまたま倒壊しそうな建物の側にいたら、きっと命も危ないと思います。

通勤も困っています。私の家は、現在は明石市の西の端、学校は神戸市の東の端（高速道路が横倒しになったところの近くです）なので、三宮を経由しないと行けないのですが、しかし、その三宮が一番危険な場所なので、交通手段がありません。姫路の方から大きく迂回したコースを取って電車で通ったり、自転車を使ったり、船で神戸港まで行ったり、電車が通っているところまでとりあえず行って歩いたり、車以外の（車・バイクは神戸復興の邪魔になるだけなので）あらゆる方法を取って試しましたが、家から学校までの片道は、最低四時間、一番かかった時で八時間半もかかりました。

そんな思いをしてまで通勤している学校ですが、授業をしたり、生徒の面倒を見ているわけではありません。

私が、地震後、一番最初に学校でした仕事は、遺体を棺桶にいれる作業でした。最初の日、地震発生後初めて生で見た神戸の街の崩壊にショックを受け、学校の中の崩壊にショックを受け、体育館に千人を超える避難民の人々が居るのにショックを受け、そして、教室が三十体以上の方々の遺体安置所になっているのです。

信じられない光景です。私が、棺おけに入れるのを手伝った方は、四十歳ぐらいの男の方でしたが、側で子供らしき五歳ぐらいの女の子が、「早く起きよ」とあどけなく言っている光景に出くわしました。辛かったです。棺桶にいれるときも、服は使えるので裸にして、たった一枚の毛布でくるんであげた上に、線香を何本かともしてあげるだけなのです。

しかし、まだこの方は良い方でした。変な具合に死後硬直をしてしまった人は、棺桶に入らないので、布団でくるめられているだけでした。そういう遺体が、何体も何体もあるのです。また、体育館には千人ほどの避難民の方々がおりました。泣き声がとぎれることなくどこかで聞こえていました。今は、職員室もやっと片付けましたが、最初の日、机はひっくり返り、蛍光灯は割れ、本棚は倒壊し、足の踏み場はありませんでした。

避難民の人達も少しは減りましたが、いつこの体育館を出られるのか、わかりません。出ていくあてもないので。そして、この避難民の人々のお世話もすべて私たち教師がやっており、もちろん順番で宿直もあります。食事の世話、水の搬入、衛生面の配慮、支援物資の搬入、行方不明者を探しに来た人への対応、ありとあらゆることが教師の仕事です。だれか過労死するのではないか、冗談ではなく心配です。

火災に襲われた神戸市長田区一帯【写真は省略】

恩師の本に励まされ

地震後、最初に学校にまで辿り着けた日、自分の机がどこにあるのかわからない状態の中で、偶然にもいつも机の上に置いていた、私の大学の恩師の坂詰教授の『敬語 思いやりのコミュニケーション』という本を見つけました。もっていったリュックサックに入れ、その本を帰りのバスの中でめくりました。「はじめにこそありき」という言葉を読んだときに、初めて涙が溢れてきました。本当にそうだと思います。ここで、ここをなくしたら、人間ではない、教師ではないと思います。残念ながら、盗みをする人もたくさんいるようです。

しかし、自分の身をかえりみず近所の人を助けたり、今までの仕打ちを忘れ、ボランティアに励む在日の人達もいます。街の状態を見ると、くじけそうになるのですが、「はじめにこそありき」だと、自分に言い聞かせています。私より大変な人達は、たくさんたくさんいるのです。

さて、生徒たちですが、今現在、学校全体では、二人の生徒が亡くなりました。そのうちの一人は三年生で、その彼が一年生と現在の三年生の時に、私は国語を担当していました。やっと就職が決まり、あと少しで卒業というところでした。二学期にその生徒が、東洋大学の「現代学生百人一首」に応募した作品は、

内定し嬉しいけれど本心は遊ぶぞ遊べ二十歳になるまで

二十歳になるまで、遊ぶことはできませんでした。残念です。ひとなつっこい、可愛い生徒でした。地震とほぼ同時に家が崩れての圧死で即死だったため、苦しまずに逝ったことがせめてもの救いです。

私は、今、一年生の担任ですが、私の学校は全県一区で、兵庫県ならどこからでも通うことができます。だから、地震後、全員の生死を確認するのが大変でした。交通は麻痺していますし、電話はほとんど通じないのです。外からかけるほうが通じると聞きましたので、交通が動き出すまでは、夜遅くまで、ずっとだれもこない駅のプラットホームの公衆電話から生徒の家かけ続けました。生徒たちと「生きてるか」と電話をするのは、当たり前のことですが、初めてでした。「先生、家こわれそうやけど、みんな元気や、先生大丈夫か」こういう言葉を何度も何度も聞きました。今後の生活を考えるととてもこわいのですが、そのときは「生きてる」ということが、本当に嬉しかったです。

家を壊された生徒も何人かいて、それぞれ家の近くの避難所へいるか、親戚や知人の家に疎開しています。遠くの県、京都や奈良にまで疎開している生徒もいます。

自分のクラスの生徒の全員の無事が確認されたのは、三日後でした。その間は本当に、心配で心配で眠れなかったのです。寝てもうとうとすると、すぐに目が覚めてしまい、また電話をかけてしまう、そういう時間が続きました。テレビで、燃えている画面や高速道路の倒壊現場を見るとき、その近くに住んでいる生徒たちにまだ連絡が取れていませんでしたので、胸が締め付けられる思いでした。

電話が通じたり、避難場所からかけてくれた生徒たちは、みんな素直な子になっていました。

「頑張れよ」それしか言えないのですが、その言葉を聞いて、「先生ありがとう、大丈夫や」泣きながら言ってくれた子もいました。私の声を聞いて、緊張が解けたのか、電話口で嗚咽をあげる子もいました。「ありがとうございます」と何度も何度も繰り返す子もいました。全員無事、ということが分かったときには、ほっと胸をなで下ろすなんていうものではなく、本当に腰が抜けそうになりました。その場にへたりこんでしまったのです。

焼失した神戸市長田区の大正筋商店街【写真は省略】

今後の生活に不安残るが

しかし、大変なのは、実はこれからなのです。街があの状態では、いつ全員が学校できて、授業を始められるのか、見当もつきません。生徒たちから、日に何人も何人も電話がかかってくるのですが、私が電話を取れたときには、「先生、学校で勉強してるほうがええわ」と、みんなが同じようなことを口にします。でも、神戸市内で、ほとんど水とガスがきていない状態で、交通網も大事なところが通っていない状態で、学校が普段どおりに再開できるはずもありません。登校しても体育館を初め、全クラスが使える教室すらないのですから。

私自身、この先のことを考えると頭がいたくなるのに、家をなくして避難民生活を送っている生徒たちは、どんなにか心細いでしょう。

学校も片付けや避難民の世話で大変ですが、私は、今避難民生活をしている生徒のところを回っています。話をし、いるものがあれば届けてあげています。水もガスも出ていないところがほとんどなので、可能な限り私の家に呼んで、風呂にいらしてあげ、あたたかい物を食べさせてあげようと思います。テレビ、ラジオの報道もだんだん減っているようですが、大変なのはこれからです。鉛筆一本持って逃げられなかった生徒たちもいます。できる限りのことをしてあげようと思います。

ただ、心配なのは、経済面です。募金もたくさん集まっているようですが、私の生徒たちのところへは一円もきていないのが、現状でした。

私自身、神戸には地震なんて来ないと思っていました。しかし、現実にはやってきて、一瞬のうちに神戸を地獄と変えてしまいました。この地獄がいつまで続くのでしょうか。早く、普通の生活が、普通の授業がしたいと思います。

しかし、あと地震が二時間遅かったら、私は高速で走る電車の中です。多分生きてはいなかったでしょう。そう思うと、大事な命です。有効に使おうと思います。

家内には、子供を連れて名古屋の里に帰るように話をしましたが、「私も先生の嫁だから、生徒の面倒を見る」といって、まだ余震の続く明石に残っています。とりあえず、家族三人頑張っていこうと思います。

幸い、御影工業高校の教職員は全員無事で、至急再建にとりかかっております。校長も再建の準備やら後片付けで、あちこち飛び回って落ち着きませんので、取り急ぎ、拙い筆を取らせていただきました。

とりあえず、お礼まで。

編集部注＝この手紙は佐田氏から財団法人日本漢字能力検定協会へ送られたもの。兵庫県南部地震発生直後の生々しい様子がつづられており、ここに紹介しました。